「今世は」

血管の枝分かれした回数が生まれ変わった回数らしい
肋骨の凹凸部分をなぞりつつここは黒鍵ここは白鍵
夏が言う　入れ替えちゃってもバレないよ、トマトの種とカエルの卵
「今日髪が爆発してて」「(きみの笑みぐらいきれいな) 花火みたいだ」
「お前いま何やってんの?」「妹の馬になってる。ごめん、もう切る」
UFO を呼ぶときみたいにアンテナを立てる　ラジオが飛び込んでくる
整列で改まってるきみの背をスッとやって鮮魚に変えた朝
歯ブラシをきみの名前で呼んでみる　私の歯です、どうか削って
えんぴつは机の上で銃弾とおなじ鉛を背骨に立てた
母さんへ　私は元気です　兄はシーラカンスに婿入りしたよ
焼しゃけの小骨は唸る　お前さえいなけりゃ今日も生きていたのに
「痛覚は知らないままで結構です」波に溶かされ沖ノ鳥島
冷房によって寝床は北極だ　白い氷河のシーツ、おやすみ
目覚めればカマキリみたいな妹が兄の寝首をかこうとしてる
複眼で見た人間はどうですか　…今世は蠅で良かったですね。